中山間地域研究センター設立 20 周年記念事業

当センターでは、平成10年4月の設立から今年度で20周年となることを記念し、「中山間地域を次世代に引き継ぐために」を共通テーマとして、記念事業を実施してきました。

オープニングは、8月29日(水)に松江市のくにびきメッセで講演会を開催し、前海士町長の山内道雄氏に「ないものはない～離島からの挑戦」と題して講演をいただいたほか、当センターの研究員が研究成果の発表を行うとともに、各科･スタッフが研究成果のパネル展示を行いました。

当日は、県の内外から行政関係者、地域づくりに取り組んでいる団体、一般の方など250名の出席者があり、当センターへの関心と期待の高さがうかがえました。

また、講演会以降には中山間地域の未来に向け、地域の生活や国土の保全･食料の供給などの多面的機能を維持していくための方法を考える機会とするために、共通テーマに沿ったリレーイベントを順次開催しています。

当センターでは、引き続き中山間地域の抱える課題の解決に向けた幅広い研究と情報発信に努めていきたいと考えています。

【記念講演会の状況】

○県内外の来場者で満席となった講演会場

○住民との危機感共有の必要性を説かれた山内氏

【リレーイベントの開催状況】

目　的	タイトル	開催日
地域運営の仕組みをつくる	人口推計研修会	12月　4日(火)
	中間支援組織情報共有会	1月~3月(予定)
地域を守る	「鳥獣対策を考える」 ～鳥獣専門指導員の活動報告から～	11月29日(木)
地域資源を生かす	きのこウォッチング	9月24日(月)
	秋の里山でキノコ狩り	10月14日(日)
	「林業成長産業化の第一歩」 ～低コスト再造林の最前線～	11月　8日(木)～9日(金)
	竹林管理と竹の利用･処理方法を考える	11月18日(日)
地域の担い手を育てる	放牧実践スクール	6月29日(金) 他3回
	農林大学校林業科による公開実践授業	8月29日(水)
	島根を数字で見てみよう	11月10日(土)

★県民の森ふれあい講座★

雪だるまの森づくり、餅つきと呉汁（ごじる）

2019年3月2日（土）10時～15時

【集　合】県民の森木工室（飯南町小田）

【参加費】500円

【申込先】島根県立ふるさと森林公園
学習展示館
☎0852-66-3586

雪遊びのできる服装で
ご参加ください。

中山間プレス
Webサイト

島根県中山間地域研究センター情報誌
MRRC
Chu-San-Kan press チュウサンカンプレス
研究の森から中山間地域を応援します
2019
Vol.28

編集・発行
島根県中山間地域研究センター
〒690-3405　島根県飯石郡飯南町上来島1207
TEL 0854-76-2025　　FAX 0854-76-3758
WEBで検索　島根県中山間地域研究センター　検索

島根県中山間地域研究センター情報誌
MRRC

Chu-San-Kan press チュウサンカンプレス

2019
Vol.28

研究の森から中山間地域を応援します

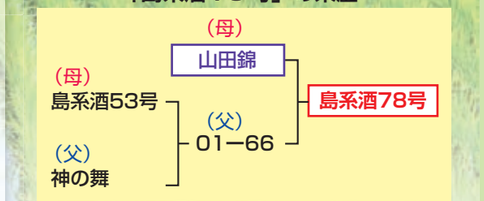
18年ぶりの
島根県オリジナル酒米の誕生を目指して！

島根県オリジナルの新しい酒米が登場します！

日本酒の原料って知っていますか？そうです、お米です。米の中でも「酒造好適米」という普通の食用米よりも粒が大きく、米粒の真ん中に白い楕円状の「心白」ができる米を主に使い、一般に「酒米」と呼んでいます。

この度、島根県農業技術センターが育種し、中山間地域研究センターで試験栽培を重ねたオリジナル酒米「島系酒 78 号」を品種登録出願しました（出願中）。この夏に、広く皆様から名称を募集したところです。出願公表されれば、新たな名称を皆様にお知らせいたします。島根県らしいおいしそうな名前がつくといいですね。

「島系酒 78 号」の来歴



「山田錦」を上回る栽培特性

近年の日本酒ブームにより、美味しいお酒に対する需要が高くなっています。特に、有名な「山田錦」を原料に使ったお酒の人気が高く、県内でも栽培面積が拡大しています。

一方、栽培面で山田錦は、非常に作りにくい品種です。丈が長くて倒伏しやすく、収穫時期が遅く、籾が脱粒しやすいため、本県では収量、品質が低くなる傾向にあります。

そこで「山田錦」に替わる酒米を目指して育種されたのが「島系酒 78 号」です。「山田錦」と島根県が育種した「01-66」を交配した「島系酒 78 号」は、「山田錦」よりも丈が短くて倒伏しにくく、収量が多いことが特徴です。

表1 各品種等の栽培試験結果（5年間の平均）

品種等	稈長 cm	収量 kg/10a	千粒重 g	検査等級
改良雄町	88.8	527	27.1	2等中
山田錦	93.3	515	27.7	2等中
島系酒78号	**89.5**	**585**	**29.3**	**1等下**

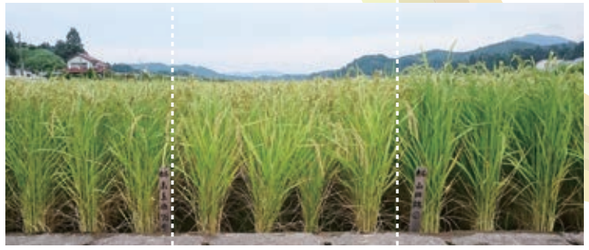
図1 玄米の比較

「島系酒78号」の酒米としての品質

平成26年から中山間地域研究センターで品種比較試験を続けていますが、毎年、同熟期の酒米奨励品種「改良雄町」よりも１割程度高い収量が得られています（表１）。

また、ひと粒の大きさが他の品種よりも大きく、酒米として精米しやすいため、「山田錦」のように精米歩合50%以下の「大吟醸酒」に向いているようです（表１、図１）。

登熟期の草型の比較



改良雄町　島系酒78号　山田錦

「島系酒78号」が新しい品種として認められれば、平成13年に出願公表された「佐香錦」以来18年ぶりの島根県オリジナルの酒米となります。早ければ平成31年産米から生産・販売される予定です。

お問い合わせ：資源環境科（電話 0854-76-3814）

外部人材と協働した地域づくりのあり方を研究しています
～学生地域づくりインターンシップ～

多くの中山間地域では地域活動の担い手不足が課題とされています。一方で「地域おこし協力隊」など地域に積極的に関わる若者や都市住民が増加しています。現在、中山間地域研究センターではこのような地域外の人材（外部人材）と協働した地域づくりのあり方について研究しており、外部人材の活用の一つとして学生のインターンシップの可能性を検証しています。今年度は特に大学生と地域住民との関係性の構築過程に注目していきます。

学生地域づくりインターンシップ

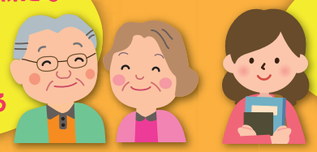
地域づくりに関心がある学生に、夏休みの約１ヶ月間、地域づくりに積極的に取り組む地域に入ってもらい、地域の要望も含め、それぞれの**地域の課題の発見・解決策の提案**をしてもらいました。活動の最後には地域住民に対して１ヶ月間の活動を振り返り、報告会を行いました。

2012年から始まったインターンシップでは、これまで島根県内の12地域が学生を受け入れ、北は北海道、南は沖縄と全国から**37名**の学生が参加しています。インターン終了後も地域を再訪するなど、継続的に地域に関わる学生もいます。

インターンシップ１ヶ月間の流れ（一例）

地域を歩く → とにかく話を聞く → テーマを絞る → さらに調査を進める → 提案を考える → 成果報告会

＊地域のメリット＊
1. 学生の自由な発想により新たな視点を得られる
2. 学生と活動することで、地域内で地域の課題を話し合うきっかけができる



＊学生のメリット＊
1. 地域づくりの現場を学ぶことができる
2. 地域に対して自分の考えを提案し、地域からのフィードバックをもらえる

中山間地域研究センターの役割

地域と学生のつなぎ役

地域の要望と学生の希望する活動とのマッチングを行います。

また、地域・学生・当センターの話し合いの場を設け、地域づくりに向けた活動の方向性について協議するとともに、話し合いや活動がスムーズに進むようにサポートします。

社会科学の視点に基づいた研究

より効果的で、長続きする学生と地域住民との関わり方を提案することを目的に、学生と地域住民との関わりの実態をデータとして収集し、研究を進めていきます。

その手法として、学生と地域住民とのネットワークの構築過程を可視化する方法を検討しています。

お問い合わせ：地域研究スタッフ・中山間地域支援スタッフ（電話：0854-76-3857）